

教区だより

No.3 2 8

2016 2

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌



特集

「葬儀のかたち⑥」

3

第6回は近江第2組の良覺寺における取り組みを特集します。

「良覺寺門徒の葬儀式における留意事項について」と題した冊子をもとに、遺族・葬儀社と共につくりあげる葬儀とは？

ざっぽう 雑宝



人生の中で出遇った大切な言葉。
その言葉がその人に何を教え、その人をどのように歩ませたのか、
思いを綴っていただきます。

【筆者】丹波第1組 満林寺 衆徒

つげがわ あつし
黄楊川 淳 氏

4

…世の中というのは、日々の生活の
様々な雑事に煩わされるため、今も昔も
「面白いことがない」と感じるものなの
だろう。…(本文より)

連載

《第21回》

親鸞 —時代を生きる—

たいら まさゆき
平 雅行 氏

5

今という時代 / 出会いの窓

6

京都教区教化レポート(京都教区坊守会)

7

京都教区の動き

拾学舎

二〇一五年十二月十二日(土)、京都教区会館に於いて、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年お待ち受け事業として、育成員等研修小委員会担当、第一回「拾学舎」が開かれた。

研修会は

- ① 「教学の学び」『教行証文類』「総序」
講師 藤嶽明信先生
- ② 「班別攻究」委員担当
- ③ 「声明作法の学び」『正信偈同朋奉讃式』
講師 泉 康夫先生
- ④ 「夕食懇談会」

の四部構成で、受講生には盛りだくさんの研修内容となった。

しかし、両先生の温厚なお人柄、委員の優しさ等によるものか、受講生に講義内容がどんどん入って行くように感じられた。そして、和やかな雰囲気の中、再会を約束して研修会は終了した。

(育成員等研修小委員会委員 村上 宗博)

組門徒会正副会長研修会

二〇一五年十二月十五日(火)、教区会館に於いて、京都教区の組門徒会正副会長(参加者五十七名)が一堂に会し、近年、「寺ば

なれ」がますます深刻な課題になっていることから、「お寺の相続」「信心の相続」について意見を出し合いました。

山城第二組澄江寺 菅原信頭氏を講師に迎えて、真宗大谷派の全国教区、組および京都教区の組の地図上の区域や宗門の行政組織の確認をしました。また、「教化」について話されました。「教化」というと住職や寺族が学んできた知識を門徒さんに押しつけている面が多く見られるが、求められているのは「生き方としての教化」であると指摘されました。住職や寺族が門徒さんと話し合いふれあうなかで、人(門徒)の生き方(存在そのもの)から教わっていく、そのような教化が大切であると話されました。

意見交流会は、昨年を引き続いてワールドカフェ形式で意見交流を行いました。テーマ「お寺をこれからどうしたいですか?」について、四〇五名の班での話し合いを持ちました。一回二十分間の話し合いを三回、メンバーを入れ替えて行いました。意見交流会のあと、全体会で各班(全十五班)から出てきた意見を代表者が発表しました。意見交流会では、門徒のみなさんから住職や寺族とのかわりを課題とされる意見が多く見られました。また、お寺が開かれた場になるための実践例が多く紹介されました。今回の研修会で、門徒と寺のつながりを一層大切にするこ

と、お寺が住職や寺族と門徒がお互い育つていく場になることが願われていると感じました。また、各組の門徒会が連携しあい、これからの真宗同朋会運動を推し進められていくことを期待したいと思いました。

(門徒・推進員研修小委員会 山本 滋)

聖典学習会

二〇一五年十二月十七日(木)、京都教区会館に於いて「聖典学習会」が開催された。講師は教学研究所所長・安富信哉先生。今回は『歎異抄』第五条をご講読いただいた。

先生には「親鸞は父母の孝養のためとて、一返にても念仏もうしたること、いまだそうらわず」で始まる本条は、自分の父母にとどまる私たちの思いを「一切の有情は、みなもって世々生々の父母兄弟なり」と宇宙的同胞観で否定し、「ただ自力をすてて、いそぎ浄土のさとりをひらきなば」と崇りに対する鎮めという感覚による滅罪生善的自力念仏を否定して、私たちはどこまでも本願力の救済としての念仏をいただくことが待たれていることが示されているとご教示いただいた。

この学習会は毎回完結スタイルです。いつからでも結構です、多くの方々のご来聴をお待ち致しております。

(育成員等研修小委員会委員 村上 宗博)

特集 葬儀のかたち⑥

近年の社会状況、生活様式の変化により、葬儀の形式もまた変化しています。教勢調査の結果からもこの15年間の葬儀に関する変動は顕著に表れ、葬儀のセレモニー化、個人化等多くの問題を抱えています。私たちはこの変わりゆく葬儀を取り巻く環境とどう向き合うのか、具体的な事例を紹介することで葬儀のかたちを考えてみたいと思います。

自宅葬がほとんどであったものが、現在の良覚寺における葬儀のほとんどはセレモニーホールで行われるようになったと、住職の谷大輔氏は言う。市内にはいくつもの葬儀社が複数の斎場を抱え、葬儀社の介入しない葬儀は成り立たなくなかった。その上で重要なことは、遺族・住職・葬儀社の三者のコミュニケーションだと、谷氏は指摘する。

今から十年以上前に谷氏が作成した冊子がある。「良覚寺門徒の葬儀式における留意事項について」と標記されたものを、各葬儀社に配布した。そこには、真宗大谷派独自の名称や荘厳作法、司会者への注意点など、細かな住職の「意向」が記されている。それをもとに、良

滋賀県草津市、京阪神のベッドタウンとして、近年は「住みやすい街」としても人気の街である。人口の増加に伴い、駅前には高層マンションが建設され、近郊には大型の商業施設や新たな店舗が続々とオープンし、かつての田舎は住宅地へと姿を変えてきた。

良覚寺のある草津市矢橋は、市内の中心街から少し離れた古くからの集落である。かつては

覚寺では遺族と葬儀社を交えての打ち合わせから一連の葬儀が始まる。それは三者が協力関係として、この葬儀をどのような場にしたいのか、真宗における葬儀はどのような意味を持つのかという共通理解を図ることで、はじめて葬儀式が意味のあるものになるのだと、谷氏は考える。

更に、この十年間でこの地域の葬儀事情は

激変した。それは、家族・親族葬の増加である。良覚寺においても、この先も家族葬になっていく傾向は止められないとした上で、だからこそできる葬儀もあると続けられた。それこそ、どのような通夜葬儀にするか、遺族や葬儀社と話し合って、要望に応えるかたちで儀式が執行できるのではないかと。そのために、従来の「型」とはわれない形で、複数の家族葬プランをこれから作成することも考えておられるようだ。葬儀は公開すべきという思いは持ちながらも、この流れを逆手にとることで、より綿密に通夜葬儀の打ち合わせができるのではないか。昨今の家族葬になっていく傾向は、通夜葬儀という儀式を自由に考えるご縁になるかもしれない、と。

「葬儀の場が真に仏法に出遇う場として開かれるようご協力をお願いします」

冊子の最後に、このように記されている。多様化する葬儀の中で、会場の差異や規模の大小に関わらず、葬儀に関わる者全てが共に考える。互いが互いを批判するだけで終わっていくのではなく、大切にすべき視点であると感じた。

(取材・編集 出版小委員会)

雑宝



丹波第一組 満林寺 衆徒

黄楊川 淳

「面白い」

幕末維新の志士、高杉晋作の辞世の句に「おもしろき こともなき世を おもしろく」というものがある。世の中というのは、日々の生活の様々な雑事に煩わされるため、今も昔も「面白いことがない」と感じるものなのだろう。自由が保障されている現代とはいえ、なんでも自由にできるわけではないし、自由が必ずしも「面白い」というわけでもない。「面白い」と

させる」という動詞から転じて「興奮させるよな」「わくわくさせる」といった意味の形容詞になったものである。三つ目は「ファン」。こちらは「ファン＝楽しい」という名詞を形容詞にしたもので、「笑えるよな」「可笑しい」という意味になる。

この中で、中学校の教科書に必ず出てくるものは「インタレストイキング」である。中学生用の問題集などにも頻りに登場するので、ほとんどの中学生にとって「面白い＝インタレストイキング」である。ところが、中学生に英文を考えさせてみると、彼らにとって「面白い」という日本語は「ファン」である場合が多い。例えば、「淳くんは面白い」という場合は、たいていの場合「淳君は日ごろからみんなを笑わせてくれるから面白い人だ」ということになる。一方で、「黄楊川先生の授業は面白い」と表現している場合は、授業で笑わせてばかりいるので

さして、我々は日々「面白い」と感じられるような努力をどれほどしているだろうか。日々の雑事は「面倒くさい」ものであることには違いないのだが、それを「面白い」と感じるレベルまで真剣に取り組んでみたら毎日が楽しいものに変わってくるのではないか。

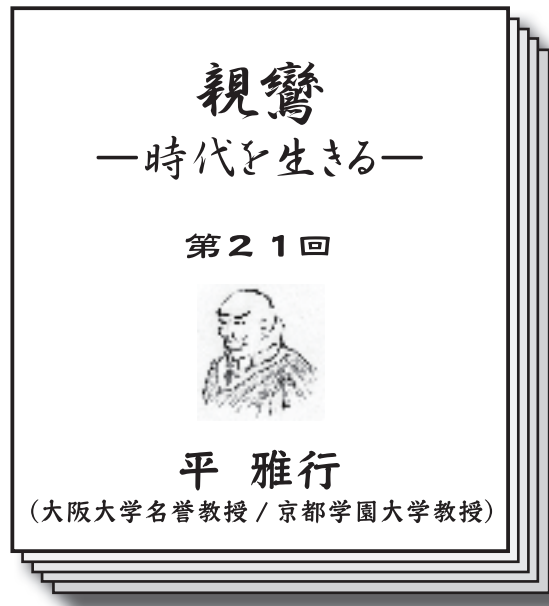
中学校で英語講師として働いているが、中学では「面白い」と訳すことができる単語を三つ学ぶ。一つは「インタレストイキング」。もともと「興味を持たせる」という動詞から転じて「興味深い」という形容詞になったものだ。二つ目は「エキサイティング」。こちらも「興奮

四苦八苦の世の中に、いかに多くの「面白い」を感じられるか。私はそれを課題として日々を過ごしている。

はないので、「興味深い」という意味で用いているのだろう。

私は「面白い」授業と評価してもらうために、生徒たちにはある一定の苦勞をさせるように心がけている。単語を覚える、英文を書く、読む。それらの苦勞を多くのテストで確認する。さらに人前で発表させたり、外国人講師と一対一で話をさせる。手間がかかり、緊張することを活動の中に多く盛り込んでいく。まちがいに嫌な授業の一つであろう。

ところが、自分の英語が相手に伝わったり、試験問題が解けたりすると、「英語は面白い」となるようである。つまり、「面白い」を得るためには苦勞が伴うということは中学生でもわかるのである。



前回は、鎌倉時代の流罪人の扱いについて触れました。預かった人物によって差があったものの、全般的に流罪人はそれほど厳しく管理されていなかった。では、親鸞はどうだったのでしょうか。

竊かにおもんみれば、聖道の諸教は行証ひさしく廃れ、浄土の真宗は証道いま盛りなり。(中略) しかれば已に僧に非ず、俗に非ず。この故に禿の字を以て姓とす。

『教行信証』後序の著名な一節です。専修念仏に対する不当な弾圧をきびしく批判した格調の高い文章です。

ところで古田武彦氏は、この文章が承元五年(一一二一)に親鸞が朝廷に提出した抗議文であったことを明らかにしました。後序の一節は、親鸞が流罪中に提出した奏状を再録したものでした。

では、この奏状は誰が取り次いだのでしょうか。奏状は誰でも書けますが、有力者の仲介がなければ受理してもらえません。『親鸞聖人血脈文集』は次のように述べています。

流罪となつて勅免を求めた時、親鸞は中納言範光卿を介して愚禿の字で奏聞した。範光らは愚禿での奏聞を誉めたたえた。

「中納言範光卿」が仲介したと記しています。この記事は信用できるのででしょうか。

「中納言範光卿」とは藤原範光(一一五四〜一二一三)のことです。姉妹二人が後鳥羽の乳母であったことから、範光は後鳥羽の側近として絶大な力を振るいました。朝廷の人事は、彼の一言で決まると噂されたほど、後鳥羽の信任が篤かった、そういう人物です。

では、範光と親鸞との間に、どのようなつながりがあるのでしょうか。実はこの範光は一二〇七年から死没するまで、越後国の知行国主でした。つまり親鸞が流罪の間、越後の流罪人を管轄する最高責任者が範光でした。

法然は土佐に流罪になりましたが、土佐国の知行国主は九条兼実でした。そこで兼実は、土佐が遠すぎるとして、讃岐国の九条家領に法然を迎えています。知行国主ともなれば、こういう柔軟な措置が可能でした。

では、藤原範光と親鸞との間に、何か特別な関係があったのでしょうか。残念ながら、直接的な関係は分かりません。でも、何もなかったわけではない。

まず、藤原範光は法然の信者でした。法然に帰依して念仏を事としましたし、死没前に法然の夢告を得て往生したと言われています。さらに範光は、『唯信鈔』の聖覚と昵懇の間柄でした。後鳥羽の側近仲間として非常に親しく、範光の葬送には聖覚が出仕しています。そして、親鸞も聖覚とたいへん親しい。『唯信鈔』の真筆草稿本を、親鸞は聖覚から借り受けています。

つまり越後国の知行国主であった藤原範光は聖覚と昵懇の仲であり、そして聖覚と親鸞も非常に親しい関係にありました。『血脈文集』がいうように、親鸞が範光を介して奏状を提出したのは事実とみてよいでしょう。

このことは、越後流罪中の親鸞に、有力な庇護者がいたことを物語っています。

今と違う時代

初めて見た3D映像は、子どもと観に行つた映画ドラえもんだった。手渡されたサングラスをかけスクリーンに目を移すと、平面であるはずのスクリーンの映像が、立体的に飛び出てくるように見える。まるで本当に空を飛んでいるかのような不思議な感覚に、乗り物酔いをする長男などは「気持ちわる・・・」と漏らしたほどの迫力であった。

この3D映像の仕組みは、人間の錯覚を利用したものである。普段から人間は、左右二つの目で一つのモノを違う角度から見ている、その左右の映像のズレ(視差)から、奥行きを認識している。つまり目に映る光景は平面でも、それを人間の脳が立体的に変換しているということになる(らしい)。この人間の特性を利用して、加工された映像とサングラスによって、二次元でしかない映像を三次元として錯覚、思い込ませるのである。だから、正確には目が錯覚するのではなく、頭が錯覚するということになる。

人間は物事をそのままに見ることができない。目の前の人がどんなに大切な存在であっても、どれほど大きな喜びや悲しい出来事を目にしても、「私」というフィルターが誤変換を起こしてしまう。僕は自分で見たもの(事実)ほど

確かなものはないと思いついでいるけれども、それは事実をそのままに受け取るということにはならない。無意識に、あるいは意識的に頭が錯覚してしまう。それは「私」がどこまでも正確かなものであり、人間が本質的に錯覚する存在であるからだ。だからこそ、ひとは間違いを繰り返す。

ドラえもんの道具に、「いろいろめがね」というものがある。そのめがねのフレームには、赤(怒り)黄(楽しみ)緑(喜び)青(哀しみ)の四つのボタンが付いてあり、それぞれのボタンを押すと、レンズを通して見える世界が色に応じて変化するというもの。ボタンを押すたび、のび太はその色に応じた世界を目にする。思えば僕も様々な色のレンズを装備している。環境に応じて、感情に左右され、その時々で次々に変化していく制御不能のカメラレオンのようなレ

ンズを。そして文字通り、色眼鏡で物事を判断し、目に映る色を錯覚して生きるよりほかない。赤色のレンズで青色を見ても、紫色にしか見えないように。

現実のはのび太が見るような単色の世界ではない。様々な出来事が錯綜し、そのことに翻弄され、その中で生きるひとの感情は濃淡に溢れるグラデーシジョンのようなものだ。そしてまた、自分の見た色(事実)と見えている色は同じではないし、正しいものではない。レンズ越しに見た正しさを振りかざすのはやめよう。とは思ふものの、すぐにまた最近反抗期をむかえたのか、何かと悪態をつく長男にイラつき、怒鳴り散らしては自己嫌悪に陥る事の繰り返しである。怒声をあげる僕の姿は、子どもの目には何色に映っているのだろう。

(編集委員 藤川 秀行)

出会いの窓



真冬に?ですが。今パーベキューのコンロはどうなっていますか。来シーズン使えそうですか?一般のコンロは灰だらけになって、すぐに穴があいたりしますね。そこでこの鉄鑄物のコンロはいかがでしょう。耐久性に問題があった従来のコンロから、何かないかと求めて参りました。七輪も検討しましたが、海外のものは安価ですが破損など耐久性には問題があるとのこと。国産の能登産などは大変高価になります。またホームセンターのU字溝など使ったこともありますが、こちらは網との距離が遠く、炭を多く入れないと十分に焼くことができません。それらすべてをクリアしたのがこちらの商品!鉄鑄物!一度お試しあれ。因に我が家ではもう一台、追加で購入。メンテナンス、耐久性、経済性、デザインなどトータルでなかなかのデキとなっております。

(編集委員・沙加戸 崇)

『鉄鑄物こんろ(角型)』(尾上製作所)

京都教区教化レポート

【京都教区坊守会】

京都教区坊守会は年間事業として、各組会長を対象とする役員一泊研修会と、全会員を対象とする一日研修会と一泊研修会を開催している。他に、「真宗基礎講座」として年十回（仏教学・真宗学・教化学・声明・仏華）の講座を開催している。

この「真宗基礎講座」は、年間受講と聴講を設け、どちらも受講料が必要である。

最近と以前の基礎講座を比較すると、その違いは特に若い受講生が増えたということだろうか。また、坊守会の役を終え、あらためて講座を受講される方の姿を見ると、女性（坊守）の「学びたい」という意欲特に「声明の講座の回数を増やして欲しい」という声は、以前と比べて格段に多くなった。以前は、声明の講座は年に一回（一日）だけだったにも関わらず、その他の講座の日と比べると受講生の人数が激減していた。しかし、最近では、女性が法務に携わる機会も増え、その必要性も増し、学びたいという方が確実に増えている。

これらの声に添えていくために、遅々たる歩みではあるが、学びの場であるこの「真宗基礎講座」を、坊守会として大切にしていきたいと思う。

現在、毎月三十名あまりの受講生が、熱心に参加されている。
（京都教区坊守会長 仲野 緑）

事務連絡

《敬弔》

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

〔届出順〕

近江第一組 蓮瑞寺前住職 吉田 文英

二〇一五年十二月十二日 八十八歳

山城第二組 因隆寺前坊守 岡 美千代

二〇一五年十一月十四日 八十一歳

〔敬称略〕

《東本願寺出版刊行物のお知らせ》

『はじめてのお勤め練習帳 正信偈』

—DVD付き—

真宗大谷派勤行集（赤本）の中から、正信偈・念仏・和讃・回向（同朋奉讃）、御文四通を収載。お勤めにあたったのポイントを解説と現代語訳付き。さらに練習用のDVDも付いています。



価格 一、〇〇〇円

『歎異抄の世界をたずねて』

（伝道ブックス七七）



著者 四衢 亮氏
価格 二五〇円

今の世を生きる私たちの課題とは、人生とは、そして人間とは何なのか—

『真宗大谷派声明集』



価格 四、五〇〇円

真宗大谷派から声明集が発行。

《事務休暇のお知らせ》

近畿連区教務所員研修のため、二月二十五日（木）～二月二十六日（金）の間、事務休暇とさせていただきます。ご承知おきください。

■京都教区教化テーマ■

今のいのちがあなたを生きている
 胸に響かすいのちの声 感謝かいのちのめぐり

◆教区事業予定

2月 1日 (月)	13:30 ~ 16:30	お寺の子ども会サポート研修会	会場◇教区会館2F	大講堂
2月12日 (金)	14:00 ~	門徒・推進員研修小委員会	会場◇教区会館3F	研修室
2月15日 (月)	13:30 ~ 16:30	出版小委員会	会場◇教区会館3F	会議室
2月18日 (木)	14:00 ~	教化推進本部会	会場◇教区会館2F	大講堂
2月22日 (月)	13:30 ~	第14期伝道研修会	会場◇教区会館2F	大講堂
2月23日 (火)	~ 16:00	〃	会場◇教区会館2F	大講堂
2月24日 (水)	10:00 ~ 12:00	財政委員会専門部会	会場◇教区会館2F	大講堂
	13:00 ~ 17:00	教区改編委員会・財政委員会専門部会	合同会	
			会場◇しんらん交流館	
	17:00 ~ 17:30	教区改編委員会	会場◇しんらん交流館	

◆地区・団体事業予定

2月 1日 (月)	16:00 ~ 18:00	准堂衆会	会場◇教区会館3F	研修室
2月 4日 (木)	19:00 ~ 21:00	仏教青年会声明教室	会場◇教区会館2F	大講堂
2月 5日 (金)	13:30 ~ 17:00	教区合唱団	会場◇教区会館2F	大講堂
2月10日 (水)	18:00 ~ 20:00	声明会	会場◇教区会館3F	研修室
2月12日 (金)	13:30 ~ 17:00	教区合唱団	会場◇教区会館2F	大講堂
2月17日 (水)	14:00 ~ 16:00	保護司会役員会	会場◇教区会館3F	会議室
2月18日 (木)	9:00 ~ 16:00	坊守会真宗基礎講座	会場◇教区会館2F	大講堂
	13:00 ~ 17:00	靖国問題学習会	会場◇教区会館3F	会議室
	18:00 ~ 20:00	仏教青年会公開講座	会場◇教区会館2F	大講堂
2月24日 (水)	18:00 ~ 20:00	声明会	会場◇教区会館3F	研修室
2月29日 (月)	15:30 ~ 18:00	大谷保育協会京都支部	会場◇教区会館3F	研修室

「掲示板」

本当は、みんながフィクションでつくっていると思っている部分に一番自分が出ている。

米原 万里

「教区だより」第328号

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

発行日 2016(平成28)年2月1日
 発行人 磯野恵昭(真宗大谷派京都教務所長)
 発行所 真宗大谷派京都教務所
 〒600-8164
 京都市下京区花屋町通烏丸西入
 Tel: 075(351)5260
 Fax: 075(351)5256
 メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp
 ホームページ: http://www.k-kyoku.net/

印刷所 (有) 寶印刷工業所

the editor's note

編集後記

境内地のケヤキの木が腐って、切ることになった。まだ材木になるようなサイズではない。ただ植えた時、植えた人はきっと意図があったことであろうと思い、可能な限り製材することにした。それから3年放置して、今、大まかにカットした。ここからさらに5、6年軒下に置くとのこと。ホンマかいな!

弟の新築祝いに板をベンチにして贈る約束はしたものの、こんなにも時間が必要とは。

はやさ、手軽さ、安さに慣れていているとこの「待ち」は度が過ぎている。(編集委員 沙加戸 崇)